

## 第4回報告

### 「山西町長の誕生と敗北 激動の4年間」

10月13日(木)に百里公民館で、4回目の「百里を語る会」が行われ、10人が参加しました。この日は模擬空対地射爆撃訓練の最中で、戦闘機が激しく飛び交う中での実施となりましたが、くつろいだ雰囲気の中で各自の思いを出し合っの学習会となりました。

今回のテーマは、①山西町長を誕生させた力はどこから出てきたのだろうか、②そして、なぜ山西町長は敗れたのか、の2つでした。この激動の4年間について、伊達さんからのレクチャーをもとに当時の事を思いながら、語り合いました。

基地誘致は1955年1月に当選した幡谷仙三郎町長が中心になって奔走したことから本格化しました。国会議員と県知事とつながり、町議会をボス的に支配して誘致工作を行い、基地誘致が表面化したときにはすでにかんりの土地の買収が進んでいました。それは当時の百里入植者の生活苦につけこみ、開拓組合長を抱き込んでのものでした。1957年7月に正式に防衛庁が小川町に基地建設を申し入れましたが、8月には「百里基地反対期成同盟」が結成され反対運動が本格化しました。1957年4月には幡谷町長の町政私物化とボス支配への反発が基地反対の声と重なって、反対派の山西きよ町長が誕生しました。しかし、基地建設が強行される中、山西町長は1年後の1959年2月にリコールされて町長選にも敗れ、反対運動は萎んでいきました。この激動の4年間からくみ取るべき教訓を語り合っ学習会は時間となりました。次回は、憲法裁判として名高い「百里裁判」について取り上げます。

